

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス こだま		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 2日	～	令和 6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 2日	～	令和 6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【プログラムと視覚支援】 視覚支援の豊富さ。 タイムスケジュールや時計、お金など、より実生活に必要なスキルを取り入れた支援。 プログラムは曜日で固定されているが、内容は毎回違うものを準備しており、子どもたちが楽しみにしてくれている。	ペクスや工程表を用いて、子どもに分かりやすく説明している。 個別に必要なペクスについても、日々ブラッシュアップしており、情報が多すぎず、的確に伝わるよう工夫している。 工作・クッキングなど子どもたちが飽きない、療育につながるプログラムを実施している。	ペクスなど、ツールの作成者が偏っているので、その他の職員も作成できるようにし経験を積む。 継続的に取り組んでいく中で、必要に応じてブラッシュアップを行いより良いものを作る。 大きく変更することを避け、子どもたちが使い慣れたものを大切にしていく。
2	【スタッフの経験値】 経験豊富なスタッフがおり、柔軟な対応ができる。 スタッフの配置が手厚い。 一人に対して丁寧に関わることができる。	「こうしないといけない。」ではなく、その時の子どもの状況に合わせて、チームで支援を行っている。 できる人が、できる時に、できることをする。 『チームこだま』を意識し、スタッフそれぞれが得意な部分を活かしつつ、お互いを思いやりサポートするよう心掛けている。	みんなが一定のレベルのことができるよう、個々のスキル向上を目指す。スタッフそれぞれの個性も大切に、得意な部分を活かしつつ、日々学びを重ねていく。個々の成長がチームの成長に繋がっていくようにしていく。
3	【事業所の雰囲気】 アットホームな雰囲気。 第2のお家のような居場所。	ひとりひとりの個性を大切にしている。 職員は明るく元気に子どもたちを迎え入れるよう心掛けている。 子どもが発する言葉やサインを見逃さないように、子どもたちの姿をしっかり見守る。	こだまが第2のお家のような居場所となるよう、温かい雰囲気づくりを日々大切にする。 子どもたちが安心して過ごせる居場所になるように、子どもたちひとりひとりをしっかり受け止め、日々の様子や発言などに注視し、気になる部分は保護者と連携する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の知識と対応力に差がある。	個々に経験値が違い、対応力に差がある。障がい特性についても知識が足りていないと感じる時がある。 職員によっては子どものパニック時に対応が難しいことがある。 ツールが使いこなせていない。	積極的な研修への参加。事業所内での勉強会などの実施。 知識は自らが積極的に獲得するようにしていく。 失敗を恐れず、チャレンジする気持ちを持つように心掛ける。何事も経験が大切。経験豊富な職員に相談したり、フォローしてもらいながら、経験値を上げていく。
2	自己判断能力・危機管理能力が低い。 (常勤、非常勤に限らず)	個々の対応力に差があるため、できる人に頼ってしまう。 咄嗟の判断が難しく、判断を間違いトラブルに繋がることがある。 苦手なことや、対応が難しそうなのに自ら挑戦できていない。	上手くいった対応の方法などを見て、聞いて、しっかり学び、それぞれに実践していく。失敗もしながら経験値を上げていく。現場に限らず、業務は人任せにせず自分の判断で動けるようにしていく。各自意識を高く持つ。 ヒヤリハットの共有をして、再発防止、留意事項の確認をしておく。常に危険予知を意識する。
3	情報の共有がうまくできていないことがある。	個々の発信力の低さ、コミュニケーション能力の低さにより、自分しか知らない情報を、他の職員とうまく共有できていないことがある。 支援時に起こった出来事など、全ての職員に伝わり切っていない部分がある。	業務日誌に、終礼で出た内容(その日起こった出来事や連携事項)を記入している。出勤時に業務日誌に必ず目を通すようにして、連携事項をそれぞれが確認する。 知らなかったでは済まされないこともある。伝えてもらうまで待つという受け身ではなく、積極的に情報を獲得できるように心掛けていく。分からないことをそのままにしない。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス こだま

公表日 令和 7年 2月 4日

利用児童数

32 名

回収数

28 名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	25	2	1	0		広いとは言い切れないが、限られたスペースを工夫して使っている。
	2	24	2	0	2		
	3	26	0	0	2	個室もあり、玄関前スロープも広く良いと思います。	
	4	27	0	0	1		
適切な 支援の 提供	5	26	2	0	0		職員は日々学びを積み重ねている。社外での研修にも積極的に参加している。
	6	27	1	0	0		
	7	27	1	0	0	伸ばしてやりたいと思う可能性をいつも引き出してくれる言葉を下さるので、親としてはとても心強くありがたいと思います。	個々の発達に合わせて、無理のない目標を設定している。
	8	28	0	0	0	年と共に変化していく困りごとや、必要となる対応力にゆっくり向き合いながら、手を差し伸べてもらえているので、本人の自信に繋がっていると思います。	
	9	27	1	0	0		
	10	27	1	0	0		曜日ごとにプログラムは固定されているが、内容は毎回違うものを設定している。毎日利用されても、いろいろな経験をしてもらえるようにしている。
	11	10	4	5	9	特にそのような機会は求めない。	昨年12月に川岡児童館のイベントに参加させてもらった。
保護者 への 説明 等	12	28	0	0	0		
	13	27	1	0	0		
	14	11	7	4	8	コロナの前はあったと思いますが…。研修会など日程が合わないことが多いので、書籍などで参考になるもののおすすめなどありましたら教えていただきたいです。	今後、保護者や家族が参加できるような、イベントなどの機会を作るよう検討していく。おすすめの本や動画（YouTube）、zoomで参加できるような研修の案内を、保護者にもしていく。
	15	26	2	0	0		送迎時に、その日の様子を伝えている。毎回LINEにて、提供記録を送信。活動内容や提供時間、おやつの内容、ご様子などお伝えしている。
	16	26	1	0	1		6か月ごとにモニタリングを実施し、保護者面談を行っている。
	17	26	2	0	0		
	18	2	6	10	10	保護者会等があるのか知らないで「どちらともいえない」にしました。特にそのような機会は求めない。家族が参加できる機会（イベント）などがあると嬉しいです。保護者同士のつながりも広がると思います。仕事の都合で送迎時のピックアップができないため、先生との会話の機会が少なくなっているのがとても残念。でもいつも温かくサポートしていただき、計り知れない支援をいただき感謝しております。	コロナ禍で、イベントへの保護者、ご家族の参加を控えてもらっていた。今後は、保護者やご家族も参加できるような機会を積極的に行っていきたいと考えている。
	19	24	2	0	2	我が子が他児にケガをさせてしまった。以前から本人のイライラ（荒れる）が強くなる時期だと伝えていたのに、配慮が足りず適切に対応していただけなかったことが残念に思った。お世話になっている身なので言えなかった。	保護者からの申し入れについて、全職員には事前に周知していた。しかし、本児がその日は落ちついていたので、少し我慢をする（待つ）チャレンジをさせてみようとした結果起こってしまった。このチャレンジは全体で決めたのではなく、個人の判断により行われていた。チャレンジをさせるべきタイミングではなかった。このことが原因で本児にストレスをかけてしまい、パニック状態になり他児にケガをさせてしまう結果となった。今後このようなチャレンジをさせる場合は、まずは全体に提案し、全職員が納得した上で行う。また適切な時期に、全職員がフォローできるような体制の下行うようにする。
	20	26	1	0	1		
	21	28	0	0	0		HPにてブログ配信。毎月のプログラム予定表を写真付きデータにてお知らせしている。毎月撮りためた写真を、月ごとにまとめて保護者に送信している。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25	2	0	1		最近、マニュアルだけでは対応できないことも増えてきている。その時に適切な判断をし、安全にお子様をお預かりするよう心掛けている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	0	0	1		避難訓練を年3回（地震・風水害・火災）消火訓練を年2回実施している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	1	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1	1	2	ケガ等ないので分かりません。経験なし。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	26	2	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	27	1	0	0	お友達と会えるのが楽しいようです。もう6年生…一人の時間大好きみたいです。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	1	0	0	いつもお世話になり、ありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス こだま		公表日		令和 7年 2月 4日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	訓練室は十分な広さだとは言えないが、部屋を間仕切ったり、机や物の配置を工夫して、なるべく快適に過ごしてもらるように配慮している。人数が多い利用日は、部屋で活動するチームと、外で活動するチームに分けてプログラムを行うようにしている。	子どもたちの体もどんどん成長しているので、自由な空間が少なく、狭く感じる。体調の悪い児童が静かに過ごせるようなスペースが必要だと感じている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	2チームに分かれて活動するため、それぞれのチームに最低3名以上職員を配置している。職員の配置数は少ない日でも5~6名、多い時は8名配置しており、充分かと考える。	帰宅の送迎時、配置数が足りないと感じることがある。開所中は全職員が児童に対応するため、帰りの送迎出発後に提供記録の作成をしている。時短勤務の職員もおり、送迎車に添乗をつけることが難しいことがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	おもちゃの棚、荷物置き場と子どもたちにわかりやすく設置されている。視覚支援を重視しており、環境は構造化できている。スケジュールや、その日利用の児童名、職員名、帰りの送迎車、送迎順など…子どもたちが自分で見て確認できるよう掲示している。ボックスの活用（イラストで提示）。子どもたちの成長や様子に合わせて、設備の配置を変えている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日掃除しており、清潔を保っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	1人になれる空間、クールダウンできる場所があり、自由に出入りできる。パニック状態の時や、他害行為がある時は別室や送迎車内、屋外へ移動させる。早めに帰宅させることも選択肢にしている。	静養室があればなお良い。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0 (未記入) 1	常勤職員を中心に、午前中に会議を実施している。時間に余裕がある時は、午後に会議を行いなるべく多くの職員が参加できるようにしていく。	全職員に会議に参加してほしいが、非常勤の職員は勤務時間的に難しい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0 (未記入) 1	毎年年末に実施している。モニタリング時にも、聞き取りをしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎日、始めと終わりにミーティングを行っている。その日起こったことや、気になることなどを出し合い、対応や改善点を考えたり、意見を出し合う場になっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2 (未記入) 2	実地指導にて指摘された改善点については、すぐに対応している。	第三者評価は受けていないが、市の取り組みに申し込みをしている。今後、援助を受ける予定。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	毎月1回社内研修を行っている。専門的で必要な知識を取り入れるため、積極的に社外での研修に参加するように勧めている。個別にも、自由に学べるような環境を整えている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	子どもたちができそうなプログラムを吟味し、適切な活動が構成されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0 (未記入) 1	アセスメントについては、それぞれ担当の職員が作成している。作成したアセスメントや、モニタリングの情報を基に計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	支援計画作成のために随時会議を開き、モニタリング、アセスメントの情報を基に課題を分析し、それぞれに必要な支援目標を設定している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	新規利用者の情報を前もって共有している。利用日ごとに、目標に対する評価を毎回行っている。利用児童全員の支援目標を一覧にしている。	全員の支援目標を一覧にして、いつでも閲覧できるようにしているが、全職員がすべてを把握して支援が行えているとはいえない。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0 (未記入) 1		会議を時間に余裕のある午前中に開催するので、参加できていない職員（非常勤）がおり、分からないこともある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	工作、クッキング、おでかけ、イベントなど、それぞれに立案してもらい、決定はチームで行う。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	毎日利用されても、違うプログラムに参加できるよう工夫している。内容が被らないように、なるべく新しい内容にするよう心掛けている。工作は家で飾れるものを中心に作成。クッキングは簡単に家で作れるようなものを立案している。職員が分担してプログラムを担当している。	曜日ごとにプログラムは決まっているので、そこは変更が難しい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1 (未記入) 1	それぞれに的確な計画が作成され、それに基づく支援が行われている。集団での活動プログラムと、個別に必要なプログラムを用意している。	会議に参加できていない職員（非常勤）もいるので、作成については分からないこともある。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	その日の支援の内容はもちろん、気になる子どもの様子や、配慮する点などを開所前に事前に連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	毎日ミーティングを行い振り返りを行っている。その日のミーティング内容を、業務日誌に記入しており、休みの職員も後日確認できるようにしている。	情報を発信する職員と、発信しない職員がいる。全員が意見を出し合い、話し合うことができていないことがある。コミュニケーション能力の低さ。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	業務日誌に、終礼で出た内容を記録しており、休みの職員も情報が得られるように工夫している。	業務日誌の確認ができていない職員がいる。誰かから聞くまで放置してしまっている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0 (未記入) 1	6か月ごとに行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8	0 (未記入) 2		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	発語のない子どもには、ツールを使って自ら選択できるように支援している。	職員が、ツールを使いこなせていない部分がある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0 (未記入) 2	管理者・児童発達支援管理責任者が参画している。会議の内容は、全職員と共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0 (未記入) 2	地域の関係機関が集まる会議にも参画している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	常に学校とも連携、情報共有し共通理解のもと支援するよう努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0 (未記入) 1	書類など共有して事前に確認するようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0 (未記入) 1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	0 (未記入) 2	以前一度受けたことがあるが、今後も積極的に受けたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	0 (未記入) 1	コロナ禍で、交流が難しい期間が長かったが、昨年末に児童館の記念イベントに参加することができた。地域の駄菓子屋さんや公園へ行き、地域の方との交流を積極的に行っている。	コロナ禍で難しい期間が長かった。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2 (未記入) 3	京都市西部障がい者地域自立支援協議会 児童部会に所属。令和元年～4年まで運営委員として活動。現在はごだま2ndが担当している。依頼があれば、運営委員を受けける予定。	自立支援協議会については、常勤職員が参加しており、非常勤の職員半数が「いいえ」と答えている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	面談や、送迎時に保護者と連携を行っている。その日起こったことはもちろん、気になることは必ず伝えるようにしている。発達の状態や課題について、伝えるようにしている。	保護者への伝達が不十分なことがある。個々のコミュニケーション能力に差がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2 (未記入) 4	今後、保護者向けの研修の機会を検討している。	家族に対しての支援プログラムは、これまでできていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時に、丁寧な説明を行っており、不明な点についてはその都度答えるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	常に保護者と情報を共有するようにしており、送迎時やLINE、電話を使用して密に連絡を取り合っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0 (未記入) 1	面談や、送迎時に保護者から子育ての悩みなどを聞き取り、歩調を合わせ、同じ方向や方法で支援していくよう努めている。発達の状態や課題について、伝えるようにしている。LINEにて、連絡、相談を受けている。（営業時間外も必要に応じて）	職員個々の経験値の差があり、助言が難しい場合がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4 (未記入) 4	コロナ禍で、中止していた。	今後再開できればと考えているが、時間帯や日程など、多くの保護者に参加してもらうことを考えると難しい部分もある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0 (未記入) 1	保護者とはLINEで繋がっており、常に連絡が取れるようにしている。何かあれば、気軽に連絡、相談していただける体制を整えている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0	HPのブログで活動の様子（写真・コメント）をなるべく毎日発信するようしており、好評を得ている。 写真付きのプログラムカレンダーを配信。撮りためた写真を、月ごとに保護者に送信。広報誌（年3回発行）。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4 (未記入) 3	マンションの住人の方と一緒に避難訓練を行っている。 月1回 こだま療育ダンスを開催。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0 (未記入) 1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0 (未記入) 1	避難訓練は、年2回以上（風水害・地震・火災）実施している。 消火訓練についても年2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0 (未記入) 1	契約時に、確認を行っている。 保護者には、サポートブックの作成をお願いし、過去の情報も可能な限りいただいている。 いただいた情報は、職員全員で共有している。	情報を自ら獲得しようとする職員と、そうでない職員がいる。情報は教えてもらうまで待つのではなく、積極的に自らが獲得していく必要がある。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	現在アレルギー対応が必要な児童はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0 (未記入) 1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0 (未記入) 3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	ヒヤリハットを共有し、同じようなことや、大きな事故に繋がるようなことが起こらないように話し合い対応している。自由に閲覧できるように、ファイリングして保管している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	年1回、社内研修にて研修を実施している。 事業所独自で、年末に全職員を対象にアンケートを実施し、その結果を基に個別面談を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1 (未記入) 2	現在対象児童はいない。		